

活動の成果を見せる技術 概論

活動の成果を見せる技術 【技術のコアは活動の評価】

1. 予算を投じた事業の成果を意思決定者・関係者に見せる

→事業が地域の健康課題の解決・改善に効果があったかどうかについて 説明責任を果たすこと

成果を見せなければ・・・⇒予算を投じた意味がなかったと意思決定者や関係者が判断
⇒予算削減や事業の廃止、事業への協力打ち切りへ

成果を見せて

→事業予算の継続・拡大の意思決定へ

→保健師の存在価値を見せることにもなる

2. 住民主体の活動の成果を住民に見せる（住民自身が見出せるように支援する）

→住民主体の活動が地域の健康増進にどのように寄与しているかについて説明責任を果たすこと

成果を見せなければ・・・⇒住民が活動の意義を見出せず、負担感がつ
⇒やりがいや意欲が低下して活動の衰退へ

成果を見せて

→住民の満足感・自己効力感アップへ

→活動継続・拡大の意志決定へ

活動の成果を見せる技術 【要素】

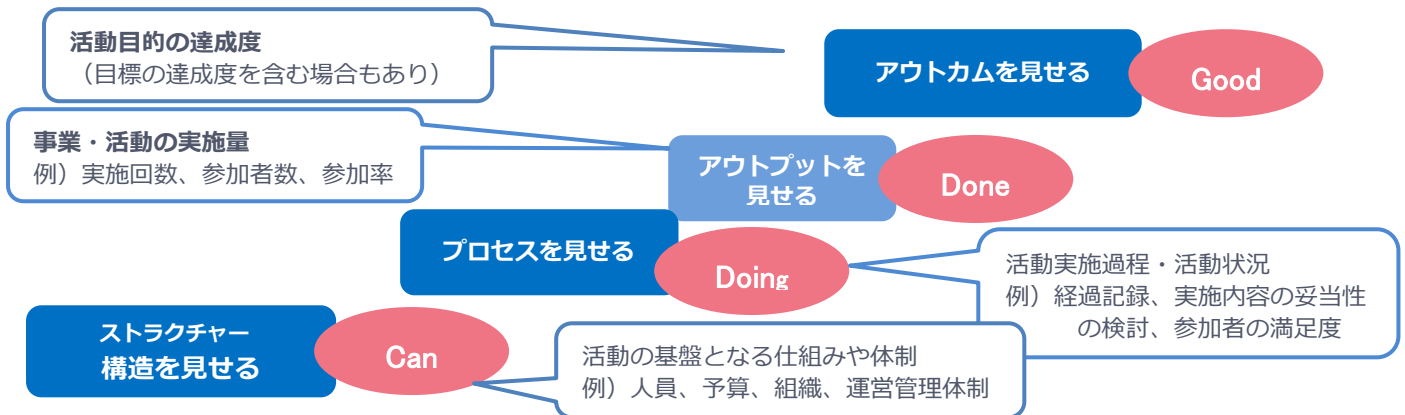


活動の成果を見せる技術 【要素を網羅した展開過程】

- ステップ1 ワーキングチームを作る
- ステップ2 評価の目的を明確にする（何のために評価をするのか？）
- ステップ3 活動の目的・目標を再確認する（どのような成果を求めているのか？）
- ステップ4 評価計画の立案（評価方法・評価指標・実施者・時期）
- ステップ5 評価の実施（データ収集・整理）
- ステップ6 結果のまとめ・解釈
- ステップ7 公表の準備・公表

活動の成果を見せる技術 【評価して見せる内容】

※ここでは、評価の枠組みを、ドナベディアン¹の医療の質評価モデル（構造・プロセス・アウトカム、Avedis Donabedian's Model of Assessing Quality of Care 1980）とアウトプットとした。



活動の成果を見せる技術 【評価項目の例 評価の枠組み別】 (岡本 2014)

評価の枠組み	評価項目	評価方法
ストラクチャー 構造	<ol style="list-style-type: none"> 1. 自治体や組織の方針 2. 予算 3. マンパワー（事務、専門職） 4. 活用できる社会資源（場・サービス） 5. 協働・連携の推進体制 など 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 合致しているかの検討 2. 配分可能かの検討 3. 量と質、稼働可かの検討 4. 量と質、利用可かの検討 5. 有無、有機的かの検討
プロセス 過程	<p>(企画段階)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地域診断→健康課題の明確化→優先度の決定→目的・目標の設定 2. 対象選定、周知方法、実施時期・時間など 3. 根拠に基づくプログラム内容・理論の選択（効果がある、地域特性・対象特性に合う） 4. 評価計画（評価デザイン、方法、評価指標、時期、評価体制、など） <p>(実施段階)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 事業の進捗（各回の準備状況・参加率） 2. プログラムに対する参加者の満足度（講師、流れ、内容、参加者、スタッフ、教材、場など） 3. 行動変容の経過・推移 4. スタッフの力量・技術・人材の配置、など 5. チームワーク（目標共有、役割分担、など） 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 内容の適切性の協議、スーパーバイズ 2. 健康課題解決への 3. 効果効率性の検討 4. 信頼性・妥当性の検討、データ収集・入力・集計・分析の技術や体制の検討
アウトプット 事業実施量	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実施回数 2. 参加者数（実人数、延人数） 3. スタッフ数（実働、延べ） 4. 受診率、継続率 など 	<p>量的検討、経年比較、他自治体・他地区との比較、など</p>
アウトカム 結果・成果	<p>(目的の達成度)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 健康課題(マックスの健康事象)の解決・改善 2. プラスの健康事象の増加 <p>(目標の達成度)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 参加者の変化（検査値、知識・態度・行動、信念、動機、力量形成、資源活用、ネットワーク、仲間・組織化、波及、など） 2. 専門職の変化（知識・技術の習得） 3. 所属、関係機関の変化（協働・連携の体制構築） 4. 経済的効果（費用対効果） 5. 社会資源開発、施策化 など 	<p>準実験デザイン(無作為割り付けなしのコントロール群あり)前後比較デザイン</p> <p>量的・質的検討</p>

活動の成果を見せる技術 演習ワークシート

ステップ1 ワーキングチームを作る

この事例の場合、ワーキングチームには、どんなメンバーに入ってもらったらよいでしょうか？
 (ワーキングチームとは、何か課題が生じた際にその解決のために特別に組織される実務グループです。
 時間や予算の制限のなかで、最も適した人材を判断してメンバーに招集します。)

ステップ2 評価の目的を明確にする

この事例の場合、評価の目的を何にすればよいでしょうか？ 何のために評価をするのでしょうか？

ステップ3 活動の目的・目標を再確認する

ステップ4 評価計画の立案

1) あなたなら、これらの評価項目について、どのような評価方法・評価指標を用いて評価を実施しますか？

	評価項目	評価方法・評価指標	実施者 実施時期
アウトカム	①目的:子育てに孤立する親子の減少 ②目標(1): 子育てサロンに参加する親に育児仲間がいる割合 ③目標(2): 子育てサロン参加者と地域住民とのつながりが強くなった割合		
アウトプット	④事業実施量		
プロセス	⑤活動の経過 ⑥プログラムの妥当性 ⑦活動参加の満足感		
構造	⑧活動に費やした人員、予算の適切性 ⑨活動場所の適切性 ⑩活動の運営体制		

2) 今お伝えした野の花保健師の評価計画において、目標(1)、目標(2)のアウトカム評価はどのようなデザインで組めるでしょうか？

- 目標(1) 参加者同士が交流し、育児仲間が増える ➡ 例) 子育てサロン参加有無別の育児仲間がいる人の割合
- 目標(2) 参加者と地域住民のつながりが強くなる ➡ 例) 子育てサロン参加前後の近所づきあいの程度の変化

評価デザインの種類		介入前	介入後	あなたの考えるアウトカム評価の方法 誰を対象に/何を/どのような方法で/いつ/誰が 調べますか？
デザイン1		—	○	
デザイン2		○	○	
デザイン3	介入群	○	○	
	対照群	○	○	

まとめ

「活動の成果を見せる技術」の実際を、実感を持って理解できましたか？
(どんな学びがあったか、書き留めておきましょう。)

今まで、あなたは、この技術を使ったことがありましたか？
(どんな場面で使っていたか、書き留めておきましょう。)

今後、この技術をどのように活用していきますか？
(担当業務の評価計画をどのようにアップグレードできるでしょうか。具体的に考えてみてください。)